

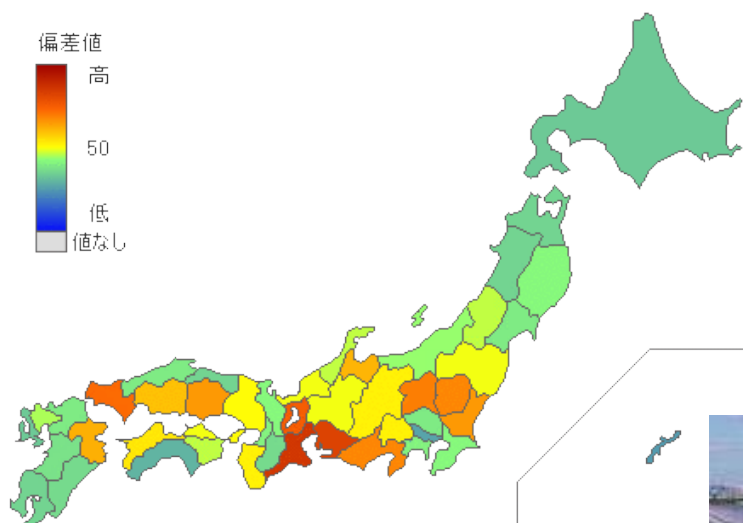
オンリーワンを目指す大学の経営理念について(5分)

三重大大学の経営理念について

— 地域イノベーション大学をめざす —

- 地域拠点サテライト
- 卓越型リサーチセンター

質問: 何の統計量でしょうか?



ヒント: 三重県が全国1位

国立大学法人 三重大学
理事(研究・社会連携担当)・副学長
鶴岡 信治 (Shinji Tsuruoka)
tsuruoka@mie-u.ac.jp



地域拠点サテライトの目的

- 「**地域課題の解決**」と「**地域人材の養成**」に関するハブ機能となって実践的な活動を展開し、**三重県地域における地域創生と地域人材の育成**に取り組む戦略的機能です。

○中期目標(数値目標:平成33年度まで)

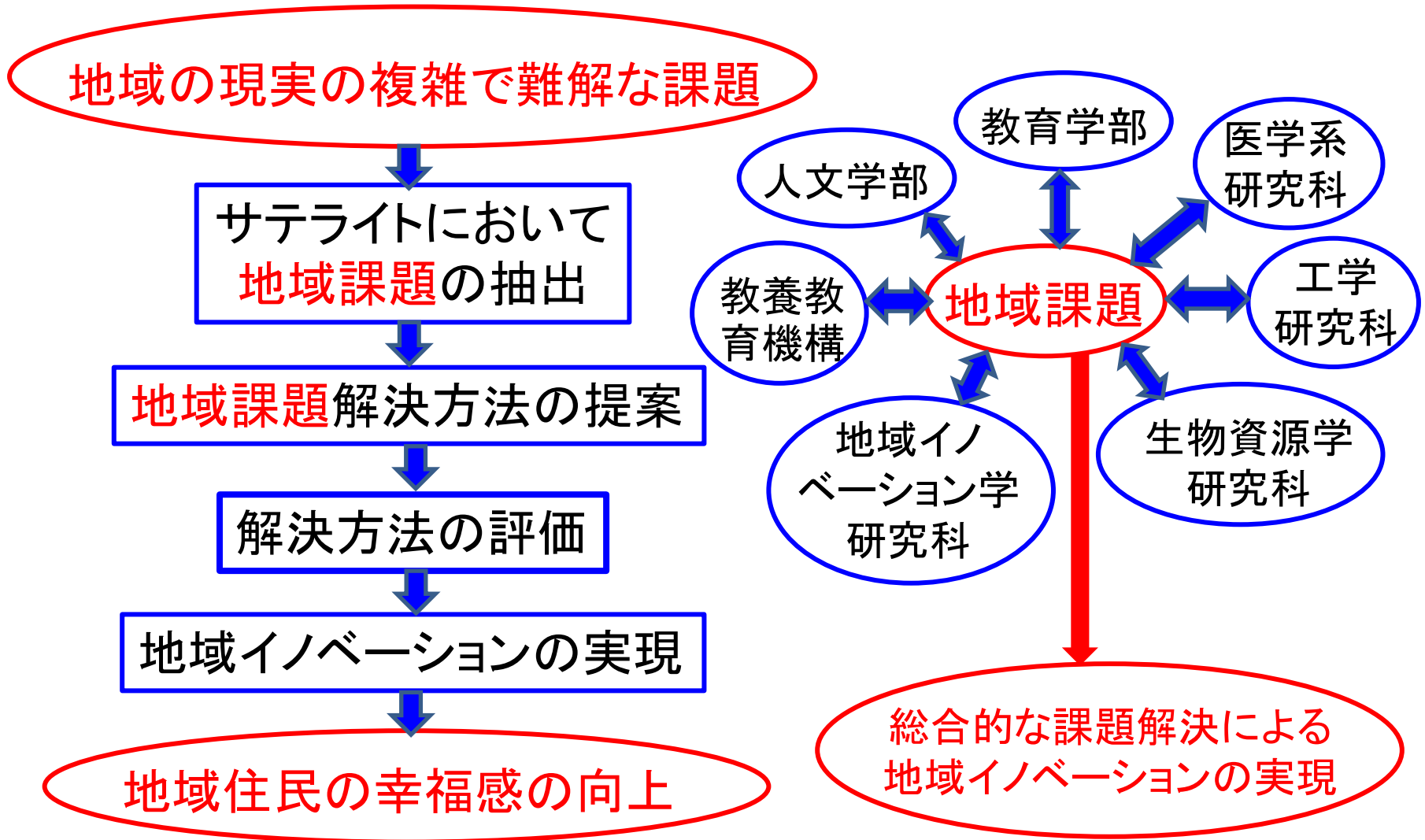
- (1)三重県の各市町と連携したプロジェクト数を86件(約2倍)に
- (2)中小企業との共同研究の件数を2倍(200件)に
- (3)地域課題に関する授業や自治体・企業等のインターンシップ等を通じて、学部学生の県内企業への就職率を平成26年度実績と比較し、10%増加(34%→44%)

○最終目標

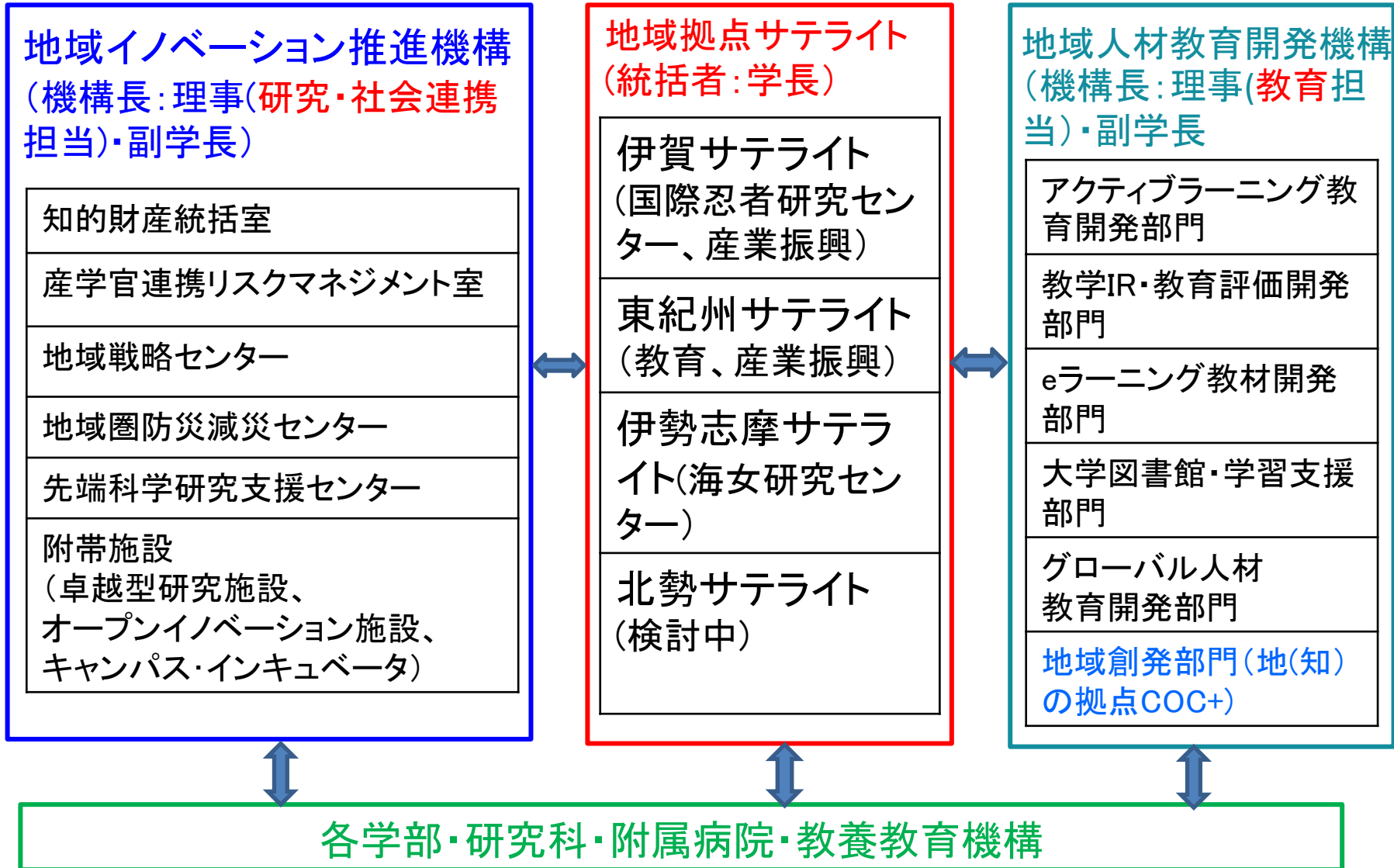
サテライトで抽出した課題に対して、三重大学の教職員と学生が、多面的なアプローチにより解決方法を提案し、地域に社会実装
 → **地域にイノベーションを起こし、地域の雇用力を増大し、地域住民の幸福感の向上に寄与**



学部・研究科間の融合による地域イノベーションの実現



産学官連携関係の組織体制



【共同研究により地域課題を解決】

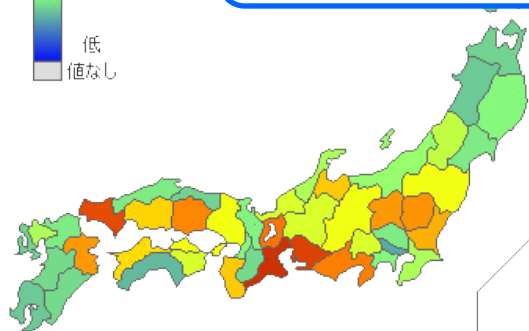
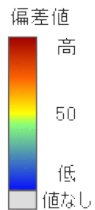


成長障害
課題1

成長障害
課題2

研究成果を社会実装し、
地域社会を発展

実現できる解決
方法を評価



生産年齢人口1人あたり生産額

1位: 三重県1,026万円(全国平均の2.5倍)

2位: 愛知県987万円 3位滋賀県

出典: 2016年工業生産額 <http://todo-ran.com/t/kiji/10720>

三重大学の特徴的な先端研究

卓越型リサーチセンターは、**独創的**であり、**多数の問題**に対して**有用な解決方法**を提案

部分問題1-1

部分問題1-2

⋮

部分問題2-1

部分問題2-2

従来のリサーチ
センター

卓越型リサーチ
センターA

卓越型リサーチ
センターB

解決
方法

解決
方法A

解決
方法B

各部分問題の解決方法を集約し、
成長障害課題の解決方法を考案

地域イノベーション推進機構が
共同研究をフォローアップ

- 卓越型リサーチセンターの目的
- 地域課題に対し最先端の研究成果を異分野と融合し、地域社会に実装
 - 地域イノベーションの推進
 - 地域の活性化、雇用の創出

卓越型リサーチセンター

- ①人間共生ロボティクス・メカトロニクスリサーチセンター
- ②次世代型電池開発センター
- ③特異構造の結晶科学
- ④次世代VLPワクチン研究開発センター
- ⑤次世代抗がん剤開発・ゼブラフィッシュクリーニングセンター
- ⑥コーディネート育種基盤創生センター

三重大学の
基礎研究を
応用展開

【波及効果】卓越型リサーチセンターの研究成果を基に地域企業が製品化し、地域で実証実験を実施し、地域イノベーションが生まれる。

【大型資金の例】

文部科学省平成29年度「地域イノベーション・エコシステム形成プログラム」に採択
『深紫外LEDで創生される産業連鎖プロジェクト』

